随一塵劫記　全

吾田先生遺撰
李謙先生按訂增補

再刻 妙隨靈効記 全

明 三巻三冊
孟春月刊

書肆 前田金陵堂

緒言摩訶

夫靈法八萬之發意者八識縁起一無頭作之之一輝万物備妙術之眞諦成事伏義之時已其方便有國家之重鑑成實寸家入鳳哨星悟高山源海量未尽刊心根世事不有此道識識和古人之秘巻說妙意真術極祭一助微名文謬解隨一智慧袋大全男入門秘心報正覺可至妙道而已

①基數

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

②大數小乘

一 十 百 千 万 億 兆 京 垓 秭
穣 溝 澗 正 載 極

③大數大乘

千 百を十かさぬるを千と云
千を十かさぬるを万といふ

万 一万 十万 百万 千万
万々を一億といふ

億 十億 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々億を兆といふ

兆 十兆 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々兆を京といふ

京 十京 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々京を垓といふ

垓 十垓 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々垓を秭といふ

秭 十秭 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々秭を穣といふ

穣 十穣 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々穣を溝といふ

溝 十溝 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々溝を澗といふ

澗 十澗 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々澗を正といふ

正 十正 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々正を載といふ

載 十載 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々載を極といふ

極 十極 百ー 千ー 万ー
十万ー 百万ー 千万ー
万々極を恒河沙といふ

恒河沙 万々恒河沙を阿曽祇といふ

阿曽祇 万々阿曽祇を那由他といふ

那由他 万々那由他を不可思議といふ

不可思議 万々不可思議を無量數と云

無量數

④小數

分 厘 毛 絲 忽 微 纖 沙 塵 埃 渺 漠

⑤度數

丈 十尺を丈といふ

尺 十寸を一尺といふ

寸 十分を寸といふ

分 十厘を一分といふ

厘 十毛を一厘といふ

絲 十忽を絲といふ

忽

一匹 鯨尺五丈四尺 但し二端を匹といふ

一端 鯨尺二丈七尺 但し不同あり

⑥量數

石 十斗
斗 十升
升 十合
合 十勺
勺 十抄

抄 十撮
撮 十圭
圭 十粟
粟 一粒の粟なり

斛 いにしへの一石
釜 六斗四升
庾 一石六斗
秉 十六石

⑦產數

一里 三十六町又八五十丁唐六町
一町 六十間
一間 或六尺五寸或六尺

町 十段
段 十畝
畝 古三十六歩 今三十歩
歩 古法六尺五寸 今方六尺

⑧衡數

一黍
一絫 十黍
一銖 十絫

一分 六朱
一両 四分又八四匁
一斤 十六両

一秤 十五斤
一鈞 三十斤
一碩 四鈞

⑨斤目差別

日本一斤 二百五十目
白目一斤 二百三十目

唐目一斤 百六十目
沈香一斤 二百十文目

當歸・地黃・川芎・黃連・薰陸 以上五種一斤 百八十目

藥種一兩 四匁四分
辰砂・光明朱・丹 以上三種一両 四匁

⑩諸物輕重

金


立方一寸 重サ百六十目

銀


立方一寸 重サ百二十五匁

鉛 同 八十目
銅 同 六十四匁

真鍮 同 六十二匁
鐵 同 六十、目

砡 同 百二十目
青砥 同 二十八匁

宋州 同 三百八十四

建法用字

法	法ハ法ノ字ヲ用ヒテ	寛
離	離ハ離ノ字ヲ用ヒテ	離
陣	陣ハ陣ノ字ヲ用ヒテ	陣
相	相ハ相ノ字ヲ用ヒテ	因
鄭	鄭ハ鄭ノ字ヲ用ヒテ	再自陽
城	城ハ城ノ字ヲ用ヒテ	和
坊	坊ハ坊ノ字ヲ用ヒテ	止殘
		不悲

九々の表

一一	一二	一三	一四	一五
二一	二二	二三	二四	二五
三一	三二	三三	三四	三五
四一	四二	四三	四四	四五
五一	五二	五三	五四	五五
六一	六二	六三	六四	六五
七一	七二	七三	七四	七五
八一	八二	八三	八四	八五
九一	九二	九三	九四	九五
十一	十二	十三	十四	十五
十一	十二	十三	十四	十五

三八二十四 三九二十七 四四十六 四五二十
四六二十四 四七二十八 四八三十二 四九三十六
五五二十五 五六三十 五七三十五 五八四十
五九四十五 六六三十六 六七四十二 六八四十八
六九五十四 七七四十九 七八五十六 七九六十三
八八六十四 八九七十二 九九八十一

⑬八算割聲

一進一十 二進二十 三進三十 四進四十
五進五十 六進六十 七進七十 八進八十
九進九十
二一天作五 二進一十 四進二十 六進三十
八進四十
三一三十一 三二六十二 三進一十 六進二十

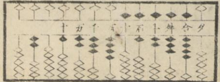
九進三十
四一二十二 四二天作五 四三七十二 四進一十
八進二十
五一加一 五二加二 五三加三 五四加四
五進一十
六一加四 六二三十二 六三天作五 六四六十四
六五八十二 六進一十
七一下加三 七二下加六 七三四十二 七四五十五
七五七十一 七六八十四 七進一十
八一下加二 八二下加四 八三下加六 八四天作五
八五六十二 八六七十四 八七八十六 八進一十
九一下加一 九二下加二 九三下加三 九四下加四
九五下加五 九六下加六 九七下加七 九八下加八

九進一十

⑭ 算盤圖解

實　商　法

天



地

横梁

右とも下ともを

左とも上ともを

算盤の中の隔を横梁と号け中の隔ゟ上を天とし中の隔より下を地と云又算盤の左を上とし右を下とす法ハ左におき實ハ右に置其ハ帰て賸る顆を商といふ帰ともハ左より右へ下り乗る時ハ右より左に進む天の顆ハ顆にて五なり地の顆ハ一顆を一とし五顆にて五なり天の顆と地の五顆と合を十とし天地の顆を拂ひて左の桁へ十と加ふ十の桁天地ともに満りて百となれバ又拂ふて左へ百と加ふ千万以上皆同し

二之段

二一天作五
二進一十
四進二十
六進三十
八進四十

米拾二万三千四百五十六石七斗八升九合
二ッに割れバ
六万千七百二十八石三斗九升四合五夕

實　法

下

八進四十〇二一天作五
八進四十（八をはらひて上へ四をくはへる）
六進三十〇二一天作五
六進三十（六をはらひて上へ三をくはへる）
四進二十〇二一天作五
四進二十（四をはらひて上へ二をくはへる）
二進一十〇二一天作五
二進一十（二をはらひて上へ一をくはへる）
二一天作五（二の一をはらひ五にてくはへる）

是ではしめ

上

法　商

下　りけざん

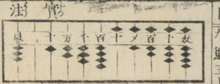
二五ノ十（五をはらひて一にくはへる）
二四ガ八（四をはらひて下へ八をくはへる）
二九十八（九を一につくりて下へ八をくはへる）
二三ガ六（三をはらひて下へ六をくはへる）
二八十六（八を一につくりて下へ六をくはへる）
二二ガ四（二をはらひて下へ四をくはへる）
二七十四（七を一につくりて下へ四をくはへる）
二一ガ二（一をはらひて下へ二をくはへる）
二六十二（六を一につくりて下へ二をくはへる）

上

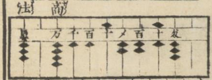
三之段

三一三十一
三二六十二
三進一十
六進二十
九進三十

銀拾二万三千四百五十六メ七百八十九匁を
三ツにてわる
四万千百五十二メ二百六十三匁づゝ



下
九進三十
九進三十（九とよびて上へ三をくはへる）
六進二十〇三一三十一
六進二十
六進二十（六とよびて上へ二をくはへる）
三進一十〇三一三十一
三進一十
三進一十（三とよびて上へ一をくはへる）
三一三十一（一と三につくり下へ一をくはへる）
よりはじめ
上

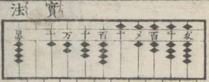


下
うけざん
三三が九（三とよびて下へ九をくはへる）
三六十八（六と一につくり下へ八をくはへる）
二三が六（二とよびて下へ六をくはへる）
二三が六　右に同じ
三五十五（五と一につくり下へ五をくはへる）
一三が三（一とよびて下へ三をくはへる）
一三が三　右に同じ
三四十二（四と一につくり下へ二をくはへる）
上

四之段

四一二十二
四二天作五
四三七十二
四進一十
八進二十

銀拾二万三千四百五十六メ七百八十九匁を
四ツにてわる
三万令八百六十四メ百九十七匁二分五厘宛



下
四二天作五
八進二十〇四一二十二
八進二十〇四二天作五
四進一十〇四三七十二
八進二十（八とよびて上へ二をくはへる）
四進一十〇四一二十二
四進一十〇四二天作五（四とよびて五をくはへる）
四三七十二（三と七につくり下へ二をくはへる）
四進一十（四とよびて上へ一をくはへる）
四一二十二（一と二につくり下へ二をくはへる）
よりはじめ
上

下
うけざん
四五二十（五と二につくる）
二四が八（二とよびて下へ八をくはへる）
四七二十八（七と二につくり下へ八をくはへる）
四九三十六（九と三につくり下へ六をくはへる）
一四が四（一とよびて下へ四をくはへる）
四四十六（四と一につくり下へ六をくはへる）
四六二十四（六と二につくり下へ四をくはへる）
四八三十二（八と三につくり下へ二をくはへる）
三四十二（三と一につくり下へ二をくはへる）
上

五之段

五一加一
五二加二
五三加三
五四加四
五進一十

米拾二万三千四百五十六石七斗八升九合を
五ツにわれバ
二万四千六百九十一石三斗五升七合八夕宛へ

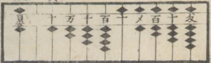
下	
五進一十〇五四加四	
五進一十〇五三加三	
五進一十〇五二加二	
五進一十〇五一加一	
五進一十	五をとりのけて上へ一をくはへる
五四加四	四を八につくる也
五三加三	三を六につくる也
五二加二	二を四につくる也
五一加一	二を五につくる也
まづはじめ	
上	

下	かけざん
五八四十	八を四につくる
五七三十五	七を三につくり下へ五をくはへる
五五二十五	五を二につくり下へ五をくはへる
三五十五	三を一につくり下へ五をくはへる
一五が五	一をとりのけて下へ五をくはへる
五九四十五	九を四につくり下へ五をくはへる
五六三十	六を三につくる
四五二十	四を二につくる
二五十	二を一につくる
上	

六之段

六一下加四
六二三十二
六三天作五
六四六十四
六五八十二
六進一十

銀拾二万三千四百五十六メ七百八十九匁を
六ツにわれバ
二万(令)五百七十六メ百三十一匁五分宛なり



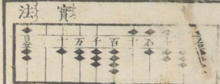
下	
六進一十〇六三天作五	
六進一十〇六進一十	
六進一十〇六一下加四	
六進一十	
六進一十〇六三天作五	
六四六十四	四を六につくり下へ四をくはへる
六三天作五	三を五につくる
六進一十	六をとりのけて上へ一をくはへる
六一下加四	一をそのまゝおき下へ四をくはへる
まづはじめ	
上	

下	かけざん
五六三十	五を三につくる
一六が六	一をとりのけて下へ六をくはへる
三六十八	三を一につくり下へ八をくはへる
一六が六	一をとりのけて下へ六をくはへる
六六三十六	六を三につくり下へ六をくはへる
六七四十二	七を四につくり下へ二をくはへる
五六三十	五を三につくる
二六十二	二を一につくり下へ二をくはへる
上	

七之段

七一下加三
七二下加六
七三四十二
七四五十五
七五七十一
七六八十四
七進一十

米拾二万三千四百五十六石七斗八舛九合を
七ツにわれバ
壹万七千六百三十六石六斗八舛四合宛之



下

七進一十〇七進一十
七進一十〇七二下加六
七進一十〇七五七十一
七進一十〇七四五十五
七進一十〇七四五十五
七進一十（七とくゝひ上へくるゝ）七二下加六（二とその余をおき下へ六をくるへる）
七四五十五（四と五につくりそ下へ五をくるへる）
七五七十一（五と七につくりそ下へ一をくるへる）
七一下加三（一とその余をおき下へ三をくるへる）

ヨ里はじめ

上

下　かけざん

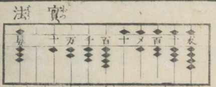
四七二十八（四と二につくり下へ八をくるへる）
七八五十六（八と五につくり下へ六をくるへる）
六七四十二（六と四につくり下へ二をくるへる）
六七四十二　右に同じ
三七二十一（三と二につくり下へ一をくるへる）
六七四十二（六と四につくり下へ二をくるへる）
七七四十九（七と四につくり下へ九をくるへる）
一七ヶ七（一とえんじて下へ七をくるへる）

上

八之段

八一下加二
八二下加四
八三下加六
八四天作五
八五六十二
八六七十四
八七八十六
八進一十

銀拾二万三千四百五十六メ七百八十九匁を
八ツにわれバ
壹万五千四百三十二メ㊀九十八匁五分宛之

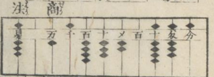


下

八進一十〇八四天作五
八進一十〇八六七十四（六と七につくり下へ四をくるへる）
八七八十六（七と八につくり下へ六をくるへる）
八進一十
八進一十〇八一下加二
八進一十（八とくゝひ上へくるゝ）八二下加四（二とその余をおき下へ四をくるへる）
八三下加六（三とその余をおき下へ六をくるへる）
八四天作五（四と五につくる）
八一下加二（一とその余をおき下へ二をくるへる）

ヨ里はじめ

上



下　かけざん

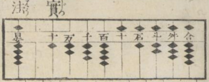
五八四十（五と四につくる）
八八六十四（八と六につくり下へ四をくるへる）
八九七十二（九と七につくり下へ二をくるへる）
二八十六（二と一につくり下へ六をくるへる）
三八二十四（三と二につくり下へ四をくるへる）
四八三十二（四と三につくり下へ二をくるへる）
五八四十（五と四につくる）
一八ヶ八（一とえんじて下へ八をくるへる）

上

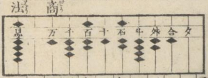
九之段

九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九
下加一	下加二	下加三	下加四	下加五	下加六	下加七	下加八	進一十

米拾二万三千四百五十六石七斗八升九合を九ッにわれバ壹万三千七百十七石四斗二升一合宛なり



下
九進一十
九進一十
九進一十〇九一下加一
九進一十〇九三下加三
九六下加六
九進一十（九をはらひ下へ一をくはへる）〇九一下加一
九六下加六（六をそのまゝおきて下へ六をくはへる）
九三下加三（三をそのまゝおきて下へ三をくはへる）
九一下加一（一をそのまゝおきて下へ一をくはへる）
よりはじめ
上



下 かけざん
一九が九（一をはらひて下へ九をくはへる）
二九十八（二を一につくり下へ八をくはへる）
四九三十六（四を三につくり下へ六をくはへる）
七九六十三（七を六につくり下へ三をくはへる）
一九が九（一をはらひて下へ九をくはへる）
七九六十三（七を六につくり下へ三をくはへる）
三九二十七（三を二につくり下へ七をくはへる）
一九が九（一をはらひて下へ九をくはへる）
上

---

⑯見一割声

見一無頭作九一	帰一倍一戻も
見二無頭作九二	帰一倍二戻も
見三無頭作九三	帰一倍三戻も
見四無頭作九四	帰一倍四戻も
見五無頭作九五	帰一倍五戻も
見六無頭作九六	帰一倍六戻も
見七無頭作九七	帰一倍七戻も
見八無頭作九八	帰一倍八戻も
見九無頭作九九	帰一倍九戻も

○見一大意

そも八算ハ一までに割術なり十一以上に割ハ見一乃術といふ此術ハ法の頭乃桁にて割次の桁と割る商とを九々に叶合して引べき法乃桁幾けた有とも頭一桁ハ割げバ残りハ皆引けバなりを知るべし割声ハゑる八算乃割声を用ゆ然れども八算乃割声にて割ても引べき数下になき時ハ十以上の割乃ときハ見一無頭作九の一と一を九につくり下へ一を加へる是にても猶引べき数足ざれバ帰一倍一戻もと九の内一を去て下へ一を加ふ猶是にても引足ざれバ又帰一倍一戻もと左乃圖解を見て知るべし

見一の割

⑰見一之部

銀百目を　十六に割バ　六匁二分五厘づゝ

⑥五進一十　⑦五六三十引

④二進二十　⑤二六十二引て八のこる

③六六三十六引て四のこる

①見一無頭作九の一　②帰一倍三かど

まづはじめ

引術　ひけざん見合も時ハ九々の声によび合して引なり

割術　わりざん見合も時ハ見一八さんの声にてするなり

○法抜けさわりても頭一けたハ割けさ與むと八皆引けさん下皆これ準じて知るべし

①見一無頭作九一　法の數と實の一と見合せ斷六て實の一を九につくりまた下の桁へ一をくはへる又法の引けさの六と實の九と見合せ六九五十四ひかれぬがゆへに

②帰一倍三かどを　これ九の内の三をとりて下へ三をくはへる人下のけた四になる

③六六卅六引て四残る　四の内と三えらひ八又のこる一とならひ下へ四をくはへる

④二進二十　四の内の二をえらひ上へ二をくはへる

⑤二六十二引て八のこる　二の内の二をえらひ又のこる一とならひ下へ八をくはへる

⑥五進五十　八の内の五をえらひ上へ五をくはへる

⑦五六三十引　法の引けさの六と實の五と呼合せ下のけさの三をえらふ人

同りけざん

銀六匁二分五厘づゝを十六よせれバ　百目になるなり

りけさはじめ

①五六三十　②一五ヶ五　③二六十二　④一二ヶ二　⑤六六三十六　⑥一六ヶ六

①五六三十　法の六と實の五を九々にて呼合せ五六三十と五の下へ三をおくべし

②一五ヶ五　法の一と實の五とよび合せ一五ヶ五と五とよびて下へ五をくはへる下八となる

③二六十二　法の六と實の二と呼合せ二六十二と二の下へ一をくはへ其下へ二をくはへるに十となるを又よびて下へ二をくはへ二となる

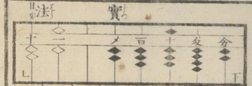
④一二ヶ二　法の一と實の二と呼合せ一二ヶ二と二をそえて下へ二を加へる下四となる

⑤六六卅六　法の六と實の六と呼合せ六六卅六と六の下へ三をくはへ其下へ六をくはへるに十となるゆへくり上へ一をくはへ四となる

⑥一六ヶ六　法の一と實の六とよび合せ一六ヶ六とよび六をそえて下へ六をくはへるに十になるゆへ一をくり上へ一をくはへる

見二乃割

銀二メ三百八十四匁二分を
二十六ニ割バ　九十一匁七分づゝ



割げさ

引げさ

まづはじめ

㊀見二無頭作九二

㊁六九五十四引

㊂二進一十　㊃一六ヶ六引　㊄二一天作五

㊅四進二十　㊆六七四十二引

㊀見二無頭作九二
法の二と實の二ト呼合し斷のひて實の二を九につくり下のけた二へ二とくはへるなり

㊁六九五十四引
法の引けたの六と實の九と呼合し此けたの五をえらひ下のけたの四を引

㊂二進一十
此けたの四乃内二をえらひて上へ一とくはへる八さんの二乃割と同さん

㊃一六ヶ六引
法乃六と實の一と呼合し一六ヶ六引て四のこると一をえらひ下へ四とくはへる

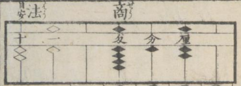
㊄二一天作五
法の二にて一をはらへ一を五につくる八さんの二乃わりと同し

㊅四進二十
法の六と實の五と呼合し五六三十ひくと余るゆへ四をとり上へ二とくはへる

㊆六七四十二引
法の引けたの六と實の七と呼合し此けたの四をえらひ下にて二とるへ

同かけざん

銀九匁壹分七厘づゝと二十六よそれバ
貳メ三百八十四匁貳分になるなり



㊀六七四十二

㊁二七十四　㊂一六ヶ六

㊃一二ヶ二　㊄六九五十四

㊅二九十八

㊀六七四十二
法の六と實の七と六七四十二と呼合し此けたへ四と加へ下のけたへ二と加へる

㊁二七十四
法の二と實の七と二七十四と呼合し七を一につくりかけ下のけたへ四と加へる

㊂一六ヶ六
法の六と實の一と一六ヶ六と呼合し下へ六と加へる但し六と四ぐるまの十ヶへくる

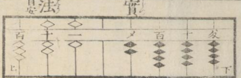
㊃一二ヶ二
法の二と實の一と一二ヶ二と呼合し一とえらひ下へ二と加へる

㊄六九五十四
法の六と實の九と六九五十四と此けたへ五と加へつぎのけたへ四と加へる

㊅二九十八
法の二と實の九と二九十八と呼合し一につくり下へ八と加へる

見三の割

銀貮〆四百四十四匁を
三百七十六ふてもんバ
六匁五分づゝ之



㊆五六三十引

㊂引六六三十六

㊅五七卅五引 ㊄六進二十

㊁引六七四十二 ㊃三一三十一

㊀三二六十二

目星はじめ

引桁

引桁

割桁

● 三二六十二 法の三と實の二と八さんの三ノ段の割にて二を六につくり下へ二を残す

● 六七四十二引 法の七と實の六と呼合し此けたの四をへらし次のけたの二を引

● 六六三十六引 法の六と實の六と呼合し此けたの三をへらし次のけたの六を引

● 三一三十一 法の三にて實の一とするハさんと同じ一と三につくり下へ一とくはへる

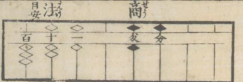
● 六進二十 六をへらしひて上へ二と加へるへし

● 五七卅五引 法の七と實の五と呼合し此けたにて三をへらし下にて五を引く

● 五六三十引 法の六と實の五と呼合し此けたにて三をへらすなり

同うけざん

銀六匁五分と三百七十六よそまはバ
貮〆四百四十四匁になるなり



うけえじめ

初段

㊀五六三十

㊁五七三十五

㊂三五十五

二段

㊃六六三十六

㊄六七四十二

㊅三六十八

㊀五六三十 法の六と實の五と呼合して此けたへ三をくはへる

㊁五七三十五 法の七と實の五と呼合し此けたへ三を加へ下のけたへ五を加へる

㊂三五十五 法の三と實の五と呼合し一五と一につくり下へ五をくはへる

㊃六六卅六 法の六と實の六と呼合し三六此けたへ三を加へ下のけたへ六を加へる

㊄六七四十二 法の七と實の六と呼合し四二此けたへ四を加へ下のけたへ二を加へる

㊅三六十八 法の三と實の六と呼合し一八一と二につくり下のけたへ八を加へる

見四の割

銀四〆四百(令)壹匁と
四百五十にとれバ　九匁七分八厘づゝ

㊅四進一十
㊆五八四十引

㊃五七兆五引
㊄四三七十二

㊁五九四十五引
㊂四三七十二
三段

㊀見四無頭作九四
二段

よりはじめ　初段

㊀見四無頭作九四
法の四と實の四と見合せ四進が十せんとも引べきものなきゆへかく云て四と九につくり下へ四とくはへるなり

㊁五九四十五引
法の五と實の九と呼合して此けたの四とならびの下にて五を引なり

㊂四三七十二
法の四と實の三と見合せ三と七につくり下へ二とくはへる

㊃五七兆五引
法の五と實の七と見合せ此けたの三とならびの下にて五をえらぶ

㊄四三七十二
前と同じ

㊅四進一十
此けたの四とならび上へ一と加へる

㊆五八四十引
法の五と實の八と呼合しこの
けたの四とならぶへ

同りけざん

銀九匁七分八厘づゝ四百五十よせれバ
四〆四百(令)壹匁になるなり

初段ゟはじめ

㊀五八四十
㊁四八三十二

二段
㊂五七三十五
㊃四七二十八

三段
㊄五九四十五
㊅四九三十六

㊀五八四十
法の五を實の八と呼合し此けたへ四とくはへるなり

㊁四八兆二
法の四と實の八と呼合し八と三につくり下のけたへ二と加へる

㊂五七兆五
法の五と實の七と呼合し此けたへ三と加へ下のけたへ五と加へる

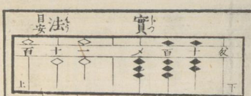
㊃四七兆八
法の四と實の七と呼合し七と二につくり下のけたへ八とくはへる

㊄五九四十五
法の五と實の九と呼合し此けたへ四と加へ下のけたへ五と加へる

㊅四九三十六
法の四と實の九と呼合し九と三につくり下のけたへ六と加へる

見五の割

銀三メ八百七十目と五百十六にわれバ七匁五分づゝなり



わりはじめ初段

㊀五三加三

㊁五進一十

㊂一七ヶ七引

㊃六七四十二引

二段

㊄五二加二

㊅五進一十

㊆一五ヶ五引

㊇五六三十引

㊀五三加三　法の五と實の三と見合し三を六につくるべし

㊁五進一十　數の多きゆへこの五をはらひ上へ一とくはへるべし

㊂一七ヶ七引　法の一と實の七と呼合し此けたの七をはらふべし

㊃六七四十二引　法の六と實の七と呼合しこのけたの四をはらひ下の二をはらふべし

㊄五二加二　法の五と實の二と見合し二を四につくるなり

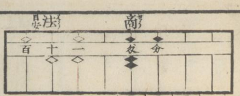
㊅五進一十　是も數の多きゆへこのところ五をはらひ上へ一とくはへるべし

㊆一五ヶ五引　法の一と實の五と呼合しこのけたの五をはらふべし

㊇五六卅引　法の六と實の五と呼合し此けたの三をはらふなり

同かけざん

銀七匁五分と五百十六かけれバ三メ八百七十目になるなり



かけはじめ初段

㊀五六三十

㊁一五ヶ五

㊂五五二十五

二段

㊃六七四十二

㊄一七ヶ七

㊅五七三十五

㊀五六三十　法の六と實の五と呼合し此けたへ三をくはへるべし

㊁一五ヶ五　法の一と實の五と呼合し下のけたへ五を加へるべし

㊂五五二十五　法の五と實の五と呼合し此けたへ二を作り下へ五を加へる

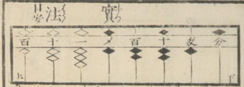
㊃六七四十二　法の六と實の七と呼合し此けたへ四を下へ二を加ふる

㊄一七ヶ七　法の一と實の七と呼合し下のけたへ七をくはへる

㊅五七三十五　法の五と實の七と呼合し七を三に作り下へ五を加へる

見六の割

銀六メ二百七十壹匁五分を
六百七十八に割バ　九匁二分五厘づゝ



㊅二八十六引

㊂八九七十二引　㊄六進一十　二七十四引

㊁七九六十三引　㊃六一加下四

㊀見六無頭作九六　二段

わりはじめ　初段

㊀見六無頭作九六　六と九につくりて下のけたへ六をくはへる

㊁七九六十三引　法の七と實の九と呼合せ此けたの六をはらひ下のけた三ひくへし

㊈五八四十引　法の八と實の五と呼合せ此けたの四十をはらふへし

㊇五七卅五引　法の七と實の五と呼合せ此けたの三をはらひ下のけたの五ひくへし

㊆六三天作五　三を五につくるなり

三段

㊂八九七十二引　法の八と實の九と呼合せ此けたの七をはらひ下のけたの二ひくへし

㊃六一加下四　法の六と實の一と見合せ下のけたへ四をくはへる

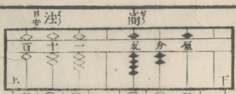
㊄六進一十　法の六と見合せ六をはらひ上へ一をくはへる

二七十四引　法の七と實の二と呼合せ此けたの一をはらひ下のけたの四ひくへし

㊅二八十六引　法の八と實の二と呼合せ此けたの一をはらひ下のけたの六ひくへし

同かけざん

銀九匁二分五厘を　六百七十八よかくれバ
六メ二百七十壹匁五分になるなり



三段　㊃二八十六　二段　かけはじめ初段

㊆八九七十二　㊄二七十四　㊁五七卅五

㊇七九六十三　㊅二六十二　㊂五六三十

㊈六九五十四

㊆八九七十二　法の八と實の九と呼合せ此けたへ七を加下へ二を加へる

㊇七九六十三　法の七と實の九と呼合せ此けたへ六をくはへ下へ三をくはへる

㊈六九五十四　法の六と實の九と呼合せ此けたへ五をくはへ下のけたへ四をくはへる

㊀五八四十　法の八と實の五と呼合せて此けたへ四をくはへるなり

㊁五七卅五　法の七と實の五と呼合せて此けたへ三をくはへ下のけたへ五をくはへる

㊂五六三十　法の六と實の五と呼合せて此けたの五の除へ三をくはへる

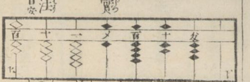
㊃二八十六　法の八と實の二と呼合せて此けたへ一をくはへ下のけたへ六をくはへる

㊄二七十四　法の七と實の二と呼合せ此けたへ一をくはへ下のけたへ四をくはへる

㊅二六十二　法の六と實の二と見合せ此けたの二を一につくり下のけたへ二を加へる

見七の割

銀六メ九百七十三匁と七百三十四に割れバ九匁五分づゝなり



わりはじめ初段

㊃四九三十六引

㊂三九二十七引

㊁七進一十

㊀七六八十四

二段

㊇四五二十引

㊆三七二十一引

㊅七進一十

㊄七三四十二

㊀七六八十四 法の七と實の六と呼合し六を八として下のけたへ四加る

㊁七進一十 法と實と呼合し七進一十として上へ一加へる

但し法より下のけたに商をたてる処へ上より數をかき實足その残りを以何進とすべし

㊂三九二十七引 法の三と實の九と呼合し此けたに二とひき下のけたの七をひく

㊃四九三十六引 法の四と實の九と呼合し此けたに三とひき下のけたの六をひく

㊄七三四十二 法の七と實の三と呼合せ此けたに四として下のけたへ二くはへる

㊅七進一十 此けたに八とあるゆへこれより又七進一十として上へ一とわくる

㊆三七二十一引 法の三と實の七と呼合し此けたの二とひき下のけたの一をひく

㊇四五二十引 法の四と實の五と呼合しこのけたの二をひくなり

同りけざん

銀九匁五分と七百三十四よすれバ六メ九百七十三匁になるなり

かけはじめ初段

㊀四五二十

㊁三五十五

㊂五七三十五

二段

㊃四九三十六

㊄三九二十七

㊅七九六十三

㊀四五二十 法の四と實の五と呼合し此けたへ二とをくなり

㊁三五十五 法の三と實の五と呼合し此けたへ一加へ下へ五加へる

㊂五七三十五 法の七と實の五と呼合し五を三に作下へ五加へる

㊃四九三十六 法の四と實の九と呼合し此けたへ三加へ下へ六加へる

㊄三九二十七 法の三と實の九と呼合し此けたへ二加へ下へ七加へる

㊅七九六十三 法の七と實の九と呼合し九を六に作下へ三加へる

見八の割

銀六メ三百㊎二匁七分を八百四十六に割ば　七匁四分五厘づゝ

㊂六七四十二引

㊁四七廿八引

㊀八六七十四

そもそもはじめ初段

㊀八六七十四　法の八と實の六と見合　六を七に作り下へ四とくへる

㊁四七廿八引　法の四と實の七と呼合し此けたの二をはらひ下で八を引

㊅四六廿四引

㊄四四十六引

八進一十

㊃八三加下六

二段

㊈五六三十引　法の六と實の五と呼合してそのけたの三をはらふ

㊇四五二十引　法の四と實の五と呼合してそのけたにて二をはらふ

㊆八四天作五　法の八と實の四と見合して四を五につくる

三段

㊂六七四十二引　法の六と實の七と呼合し此けたの四をはらひ下のけたにて二を引

㊃八三加下六　法の八と實の三と見合し三を加へ下のけたへ六とくへる

㊄八進一十　實の八あるゆへ此けたの八をはらひて上のけたへ一とくへる

㊄四四十六引　法の四と實の四と呼合し此けたの一をはらひ下のけたの六をひく

㊅四六廿四引　法の六と實の四と呼合し此けたの二をはらひ下のけたの四をひく

同かけざん

銀七匁四分五厘と八百四十六よすれば　六メ三百㊎二匁七分になるなり

三段

㊆六七四十二

㊇四七二十八

㊈七八五十六

二段

初段

㊀五六三十　法の六と實の五と呼合し此けたへ三とくへる

㊃四六二十四

㊁四五二十　法の四と實の五と呼合しこのけたへ二とくへる

㊄四四十六

㊂五八四十　法の八と實の五と呼合しこのけたの五を四につくるなり

㊅四八三十二

㊃四六二十四　法の六と實の四と呼合し　このけたへ二とくへ下へ四とくへる

㊄四四十六　法の四と實の四と呼合し　このけたへ一とくへ下へ六とくへる

㊅四八卅二　法の八と實の四と呼合し　このけたの四を三につくり下へ二とくへる

㊆六七四十二　法の六と實の七と呼合し　このけたへ四とくへ下へ二とくへる

㊇四七二十八　法の四と實の七と呼合し　このけたへ二とくへ下へ八とくへる

㊈七八五十六　法の八と實の七と呼合し　此けたの七を五につくり下へ六とくへるなり

見九の割

銀九メ百五十四匁八分八厘を九百七十六に割バ　九匁三分八厘づヽ

㊀見九無頭作（九ノ九まりはじめ）

㊀見九無頭作九九。法と實との九を見合九と其まゝおき下へ九と九を加え

㊁七九六十三引。法の七と實の九と呼合し此けたの六を払ひ下にて三を引

㊂六九五十四引

二段

㊃九三加下三

㊄三七廿一引

㊅三六十八引

三段

㊆九七加下七　七をそのまゝとき下へ七をくわへる

㊇七八五十六引　此けたの五とくわへ下にて六を引なり

九進一十　此けたの九をはらひ上へ一をくわへる

㊈六八四十八引　此けたの四をはらひ下にて八をひく

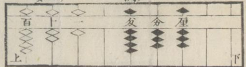
㊂六九五十四引　法の六と實の九と呼合し此けたの五をはらひ下のけたの四をひく

㊃九三加下三　法の九と實の三と見合し三と其まゝおき下へ三をくわへる

㊄三七廿一引　法の七と實の三と呼合し此けたの二をはらひ下のけたの一をひく

㊅三六十八引　法の六と實の三と呼合し此けたの一をはらひ下のけたの八をひく

同かけざん



銀九匁三分八厘と九百七十六とをかければ九メ百五十四匁八分八厘になるなり

二段

㊀六八四十八　法の六と實の八と呼合し此けたへ四とくわへ下のけたへ八とくわへる

㊁七八五十六　法乃七と實の八と呼合し此けたへ五をくわへ下のけたへ六をくわへる

㊂八九七十二　法の九と實乃八と呼合し此けたの八と七につくり下のけたへ二をくわへる

㊃三六十八　法の六と實の三と呼合し此けたへ一をくわへ下のけたへ八をくわへる

㊄三七二十一　法の七と實の三と呼合し此けたへ二をくわへ下のけたへ一をくわへる

㊅三九二十七　法の九と實の三と呼合し此けたの三と二につくり下へ七をくわへる

三段

㊆六九五十四　法の六と實乃九と呼合し此けたへ五をくわへ下のけたへ四をくわへる

㊇七九六十三　法の七と實乃九と呼合し此けたへ六をくわへ下のけたの三をくわへる

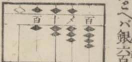
㊈九九八十一　法の九と實の九と呼合し此けたの九と八につくり下へ一をくわへる

終り

（廿）かけて割覧法 稱ニ定法

たとへバ銀六百七十八〆四百目あり 右廿人に割付んと思ふ時ハ五と懸れバ二に割る之則ち

法

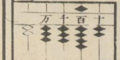


四五二十	五八四十	五七卅五	五六三十

三〆三百九十二匁づゝ

たとへバ米三万三千九百二十石あり 五百人に割付んと思ふ時二と懸れバ五に割る之則ち

法



二二が四	二九十八	二三が六	二三が六

六十七石八斗四升宛之

たとへバ米九千八百七十六石あり 廿五人に分ち与へんと思ふときハ四と懸れバ廿五人に割る之

法

りけそとめ

四六二十四	四七二十八	四八三十二	四九三十六

三百九十五石〇四升づゝ

たとへバ銀九十八〆七百六十目あり 百廿五人に割付んと思ふとき八を懸て〆則ち

八法

りけそとめ

六八四十八	七八五十六	八八六十四	八九七十二

七百九十目 八分づゝ

（十九）かけて割覧の定法

○此印あるハけたあいだをあくるべし

二の割	五の割	八の割	十一の一	十二半の一	十四の一	十五半の一	十七の一	十八半の一	廿半の一	廿二の一	廿三半の一
五とりける	二とりける	一二五	九〇九〇九	八とりける	七一四二八五	六四五一六	五八八二三	五四〇五四	四八七八〇四	四五四五四五	四二五五三

三の割	六の割	九の割	十一半の一	十三の一	十四半の一	十六の一	十七半の一	十九の一	廿一の一	廿二半の一	廿四の一
三三三三三	一六六六六	一一一一一	八六九五六五	七六九二三〇七	六八九六五五	六 二 五	五七一四二六	五二六三一五七	四七六一九	四四四四四四	四一六六六六

四の割	七の割	十半の割	十二の一	十三半の一	十五の一	十六半の一	十八の一	十九半の一	廿一半の一	廿三の一	廿四半の一
二五りける	一四二八五七	九五二三八	八三三三三三	七四〇七四	六六六六六	六〇六〇六	五五五五五	五一七八三	四六五一一六	四三四七八	四〇八一六

廿五の割	四とりける	廿五半の割	三九二一五六	廿六の割	三八四五六
廿六半の一	三七七三五八	廿七の一	三七〇三七	廿七半の一	三六三六三六
廿八の一	三五十一四	廿八半の一	三五〇八七三	廿九の一	三四八二七二九
廿九半の一	三三八九八	三十半の一	三二七八六八六	三十一の一	三二二五八
三十一半の一	三一七四六	三十二の一	三一二五	三十二半の一	三〇七六九二
三十三の一	三〇三〇三	三十三半の一	二九八五〇七	三十四の一	二九四一一五三
三十四半の一	二八九八五五	三十五の一	二八五七一四	三十五半の一	二八一六九
三十六の一	二七七七五	三十六半の一	二七三九七	三十七の一	二七〇二七
卅七半の一	二六六六六六	三十八の一	二六三一五六	卅八半の一	二五九七四〇三
三十九の一	二五六四二	卅九半の一	二五三一六三	四十半の一	二四六九一三四
四十一の一	二四三九〇一	四十一半の一	二四〇九六二	四十二の一	二三八〇九五
四十二半の一	二二五・二八	四十三の一	二三二五五八	四十三半の一	二二九八八四
四十四の一	二二七一七二	四十四半の一	二二四七一九	四十五の一	二二二二二二

四十五半の一	二一九七八	四十六の一	二一七三九	四十六半の一	二一五〇五二
四十七の一	二一二七六五	四十七半の一	二一〇五二	四十八の一	二〇八三三三
四十八半の一	二〇六一六	四十九の一	二〇四〇八	四十九半の一	二〇二〇二
五十半の一	一九八	五十一の一	一九六〇七八	五十一半の一	一九六一七
五十二の一	一九二三〇六	五十二半の一	一九〇四八	五十三の一	一八八六七八
五十三半の一	一八六九一	五十四の一	一八五一八五	五十四半の一	一八三四九
五十五の一	一八一八一七三	五十五半の一	一八〇一八	五十六の一	一七八五七
五十六半の一	一七六九九	五十七の一	一七五四三九	五十七半の一	一七三九一三
五十八の一	一七二四一三	五十八半の一	一七〇九三九	五十九の一	一六九四九
五十九半の一	一六八〇六七	六十半の一	一六五二九	六十一の一	一六二六〇一
六十二の一	一六一二九	六十二半の一	一六	六十三の一	一五八七三
六十三半の一	一五四七九	六十四の一	一五六二五	六十四半の一	一五五〇三九
六十五の一	一五三八四六	六十五半の一	一五二六七一	六十六の一	一五一五

六十六半の割	一五〇三七六
六十八の一	一四七〇五八
六十九半の一	一四三八八三
七十一半の一	一三八九六
七十三の一	一三六九八五
七十四半の一	一三四二二八
七十六の一	一三一五七八
七十七半の一	一二九〇三二
七十九の一	一二六五〇四
八十一の一	一二三四五六七
八十二半の一	一二一二一二
八十四の一	一一九〇四八
八十五半の一	一一六五五六

六十七の割	一四九二五四
六十八半の一	一四五九八五
七十半の一	一四一八四三
七十二の一	一三八九
七十三半の一	一三六〇五四
七十五の一	一三三三三
七十六半の一	一三〇七一八
七十八の一	一二八二〇五
七十九半の一	一二五七八六
八十一半の一	一二二六九九
八十三の一	一二〇四八一
八十四半の一	一一八三四三
八十六の一	一一六二七八

六十七半の割	一四八一五
六十九の一	一四四九三
七十一の一	一四〇八四五
七十二半の一	一三七九三
七十四の一	一三五一三五
七十五半の一	一三二四五〇二
七十七の一	一二九八七
七十八半の一	一二七三八七三
八十半の一	一二四二二三
八十二の一	一二一九五一
八十三半の一	一一九六〇七
八十五の一	一一七六五
八十六半の一	一一五六〇七

八十七の一	一一四九四三
八十八半の一	一一二九九
九十半の一	一一〇四五七三
九十二の一	一〇八六九五
九十三半の一	一〇六九五二
九十五の一	一〇五二六三
九十六半の一	一〇三六二七
九十八の一	一〇二〇四
九十九半の一	一〇〇五〇二五
百三の一	九七〇八七
百六の一	九四三四
百九の一	九一七四三

八十七半の一	一一四二八六
八十九の一	一一二三五九
九十一の一	一〇九八九
九十二半の一	一〇八一〇八一
九十四の一	一〇六三八二五
九十五半の一	一〇四七一二
九十七の一	一〇三〇九二
九十八半の一	一〇一五二三
百一の一	九九〇〇九九
百四の一	九六一五三八
百七の一	九三四五八
百十一の一	九〇〇九〇〇

八十八の一	一一三六三六
八十九半の一	一一一七三一八
九十一半の一	一〇九二八七六
九十三の一	一〇七五二六
九十四半の一	一〇五八二〇一
九十六の一	一〇四一六六
九十七半の一	一〇二五六四
九十九の一	一〇一〇一
百二の一	九八〇三八
百五の一	九五二三八
百八の一	九二五九一

右いづれもかけて割算乃定法なり

畢

二十　銭相場之部

銭一〆文ニ付九匁四分の相場乃時銭三〆五百文の代銀を問

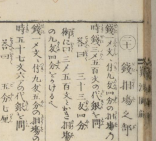
答曰　三十三匁四分

術に曰三〆五百文とおき相場の九匁四分をかける也

銭一〆文ニ付九匁五分の相場の時五十七文六分の代銀を問

答曰　五分七厘

術に曰五十七文六分を銭の定法九六にて割バ六十文と成是を相場九匁五分と懸れバ銀目知る也



銭壹〆文の相場十一匁七分五厘のとき七〆三百四十八文の代銀を問

答曰　八十六匁三分六厘二毛余

術に曰七〆三百四十八文と置此内四十八文ばかりを定法九六にて割バ七〆三百五十文とある是に十一匁七分五厘をかける也（因にいふ銭百ハ九十六文なれバ銭の定法を九六とす）

銭相場十三匁のとき銀九十七匁五分の銭高を問

答曰　七〆五百文

術に曰九十七匁五分を十三匁にて割なり

銭相場九匁四分のとき銀八十二匁二分五厘の銭高を問

答曰　八〆七百四十八文

術に曰八十二匁二分五厘を九匁四分にて割バ八〆七百五十文とある此五十文ばかりに定法九六をかける也

銭相場十一匁九分のとき銀三百六十目の銭高を問

答曰　三十〆（令）二百五十文余

術に曰三百六十目を相場十一匁九分にて割バ卅メ〇二百五十二文ニア
とある此五十二文ニア定法九六とかけるへし

銀壹匁に銭百六文遣ひのとき六メ二百九文の代銀何程と問

答曰　五十八匁四分四厘一毛余

術に曰百六文と置百文ばかりへ九六とかくれバ丁銭百二文とある是を左に
おき右に六メ二百文とおき六メ二百文ばかりへ九六とかくれバ丁銭五メ九百六十
一文とある是を左の百二文にて割バ銀高を得るへし

銀八十一匁二分の代銭八メ七百四十八文へ此銭相場を問

答曰　九匁二分八厘

術に曰八メ七百四十八文とおき四十八文ばかりを九六にて割バ八メ七百五十文
とある是を法にして八十一匁二分を割バ銭相場を得るへし

銭三十八メ八百十二文を卅六人に配るとき一人分何程と問

答曰　一メ〇七十八文

術に曰三十八メ八百十二文と置三十八メ八百文計りへ九六とかくれバ丁銭
三十七メ二百六十文とある是を卅六人にてきれバ丁銭一メ〇三十五文とある
此一メ文ばかりを百文まで定法九六にて割なり

銭二万〇九百メ〇三百卅四文を六万千五百四十七人に配るとき一人分を問

答曰　三百三十八文

術に曰銭高をおき百文以上へ九六とかくれバ丁銭二万〇六十四メ三百二
十二文とある是を六万千五百四十七人を法にして割バ丁銭三百二十
六文とある百に四文の目を出し三四十二文加ゆれバ一人分三百三十八文づゝ

㊷ 金相場の部

歩通定法

一朱ハ　六二五
二朱ハ　十二五
一歩ハ　二十五
二歩ハ　五十
三歩ハ　七十五
一両ハ　百

小判一両相場六十四匁のとき銀十八メ二百四十目ハ金数を問

答曰　二百八十五両

術に曰十八メ二百四十目を六十四匁にて割なり

銀五メ三百十六匁五分あり金相場六十二匁の時両替する金数を問

答曰　八十五両三歩

術に曰銀五メ三百十六匁五分を六十二匁にて両の位まで割バ八十五両と錢銀四十六匁五分となる扨八十五両を一桁づゝ上へあげ六十二匁を四にて割一歩の代銀十五匁五分にて残銀を割バ三歩と成也

金相場六十三匁の時一メ百六十五匁五分の代金を問

答曰　十八両二歩

術に曰一メ百六十五匁五分を六十三匁にて両の位までつもれバ十八両と残銀三十一匁五分となる扨六十三匁を四にて割一歩の代銀十五匁七分五りと成とも是を法にして残銀をわる也

金相場六十三匁二分のとき一メ六百二十五匁の代金を問

答曰　二十五両二歩三朱と一匁五分五厘

術に曰壹メ六百二十五匁を六十三匁二分にて両の位まで割バ廿五両と残銀四十五匁となる廿五両を一桁づゝ上へあげ六十三匁二分を四にて割一歩の代銀十五匁八分となる是にて右の残銀を一桁割れバ二歩と残銀十三匁四分となる亦法の十五匁八分を四にて割バ一朱の代銀三匁九分五厘と成是にて右の十三匁四分を一桁割バ三朱と残銀一匁五分五厘となる

金相場五十八匁の時二千八百二十六メ〇二匁の代金を問

答曰　四万八千七百二十四両二朱と銀二匁七分五厘

術に曰二千八百二十六メ〇二匁を五十八匁にて両の位まで割バ四万八千七百廿四両と残銀十匁と之金を一桁づゝ上へあげ五十八匁を四にて割バ一歩の代銀十四匁五分となる是残銀より銀高多けれバ割ざる故に亦法の十四匁五分を四にて割一朱の代銀三匁六分二厘五毛となる是を法にして残銀を割バ二朱と端銀二匁七分五厘となる也

金相場六十五匁の時二百七十五両の代銀を問

答曰　十七メ八百七十五匁

術に曰二百七十五両に六十五匁を懸るへし

金相場六十三匁八分のとき八十五両三歩二朱の代銀を問

答曰　五メ四百七十八匁八分七厘五毛

術に曰八十五両の上へ三歩の歩通七十五を加へ亦其上へ二朱の歩通十二五を加へ八五八七五となる是に六十三匁八分をかけるへし

金三十七両二歩二朱の代銀二メ四百〇八匁之金相場を問

答曰　六十四匁

術に曰三十七両に二歩の歩通五十を加へ亦二朱の歩通十二五を加へ三七六二五となる是を法にして二メ四百〇八匁を割なり

金五両三歩三朱と銀二分五厘にて代銀三百八十五匁之との金相場を問

答曰　六十四匁八分

術に曰三百八十五匁の内二分五厘を引五両に三歩三朱の歩通九三七五を加へ五九三七五となる是を法にして右の銀高を割へし

金一両の代銭六メ四百文にして二十三両一歩の代銀を問

答曰　百五十八メ八百文

術に曰二十三両に一歩の定法二十五を加へ二三二五となる是に一両の代銭六メ四百文をかけるへし

金一両の代銭六メ八百文にして五両二朱の代銭を問

答曰　三十四メ八百四十八文

術に曰五両に二朱乃定法十二五を加へ五一二五となる是に六メ八百文を懸
百文乃下五十文計りに銭百の定法九六をかけるへ

金一十五両二歩の代銭百六十八メ三百文之一両乃代銭を問

答曰　六メ六百文

術に曰二十五両に二歩の定法五十を加へ二五五となる是を法にして
右乃百六十八メ三百文を割なり

金八両一歩乃代銭五十七メ七百四十八文之一両の代銭を問

答曰　七メ文

術に曰五十七メ七百文とわき四十八文計りを銭の定法九六にくるへ
扨八両に一歩乃定法二五を加へ八二五となる是を法にして銭高を割へ

一両の代銭七メ二百文にして銭十一メ文乃代金を問

答曰　一両二歩と外に銭二百文

術に曰十一メ文を七メ二百文にて両乃位まで割（一メの両の位へ一桁づゝ）
上残銭三メ八百文となる法乃七メ二百文を四にて割一歩の銭一メ八
百文にて残銭一桁つまりハ二歩と二百文になるなり

金二十三両一歩銀七匁五分乃代銭百十六メ八百七十二文之金一両
の相場六十目にして銭一メ文の代銀を問

答曰　十二匁

術に曰二十三両に一歩の定法二五を加へ六十目を懸て一メ二百九十
五匁となるに七匁五分を加へ是を實に置百十六メ八百七十二文を法
にわき七十二文計りを定法九六にて割右乃銀高とするなり

金十八両二歩乃代銭八十八メ八百文之銭一メ文の代銀十二匁五分にし

て一両乃相場を問

　答曰　六十目

術に曰八十八メ八百文に十二匁五分を懸銀一メ百十匁となる是を實として十八両に二歩の定法五を加へ法にして割く

卆二　金仕掛銀仕掛之部

金相場六十二匁乃時二匁四分仕かけふて銀百五十五匁の代金を問

　答曰　二両一歩二朱と外に銀二匁二分五厘

術に曰六十二匁に二匁四分を加へ百五十五匁を両の位まで割（百目のけて両の）位一桁上残銀三十六匁四分あり法の六十四匁四分を四に割一歩の代銀十六匁一分にて一桁すれバ一歩の残銀十匁三分有又法の十六匁一分を四に割一朱の代銀三匁七分七厘五毛にて右乃残銀を割く

金相場六十二匁五分のとき二匁五分仕懸の定めにて銀三百七十目を正銀にて渡せ銀高何程と問

　答曰　三百五十五匁七分六厘六毛余

術に曰三百七十目に本相場六十二匁五分をかけ是を實とし仕懸相場六十五匁にて割なり

金相場六十三匁八分の時二匁三分仕懸乃定めにて銀五百目を正銀にて渡せ銀高何程と問

　答曰　四百八十二匁六分〇二毛四糸

術に曰五百目に本相場六十三匁をかけて三一九となる是を實として仕かけ相場にて割なり

右乃如く金仕懸を銀にて渡せハ本相場を懸仕懸相場ふて割く

街路に金相庭の高下を排む

（九三）利足之部

銀三十六匁を一ヶ月二分の利足にして五ヶ月廿一日の利銀を問

答曰　四匁一分〇四毛

術に曰三十六匁を實に置五ヶ月廿一日を法に置廿一日計りを三ッに割（一ヶ月三十日ゆへ三を以割之）五三七と成是に二分を懸一一四と成是を元銀卅六匁に懸る也

銀六メ八百五十目を一ヶ月一分半の利足にして七ヶ月の利銀を問

答曰　七百十九匁二分五厘

術に曰七ヶ月に一分半を懸一〇五となるを法にして元銀にかけるべし

銀七十六メ八百目一ヶ月八朱の利足にして六ヶ月の利銀を問

答曰　三メ六百八十六匁四分

術に曰七十六メ八百目を實に置六ヶ月に八朱をかけ四八となるこれを

法にして元銀七十六〆八百目にかけるへし

銀三百五十目六ケ月の利銀廿七匁三分之一ケ月何分の利足と問

荅曰　一分三朱

術に曰二十七匁三分を實におき三百五十目を法にしてつもる六七八とある此七八を六ケ月にて割なり

銀四〆三百目を一ケ月一割二分の利足にて元利何程と問

荅曰　四〆八百十六匁　（元利ともなり）

術に曰四〆三百目を實におき一二をかけるへし

銀元利ともに三〆目あり一ケ月二割の利足之元銀何程と問

荅曰　二〆五百目

術に曰三〆目を實におき一二にて割なり

銀一〆目を一年の間利に利を加へ十二ケ月に何程と問

荅曰

一割加へ　（元利とも）　一〆百二十六匁八分二厘五毛
二割加へ　同　一〆二百六十八匁二分四厘一毛
三割加へ　同　一〆四百二十五匁七分六厘一毛
四割加へ　同　一〆六百〇壹匁〇三厘二毛
五割加へ　同　一〆七百九十五匁八分五厘六毛

術に曰右利銀を知にハ一〆目を實に置五割乃時ハ一五を十二度かけるなり其余いづれも同じ術なり

借米六十石あり三ケ年の間借利に利を加へ初年ハ三割二年目ハ二割三年目ハ一割半にして元利とも何ほどと問

荅曰　百〇二石九斗六升　（元利とも之）

術に曰六十石を實に置十三をかけ七十八石になる二年目十二をかけ九十三石六斗となる三年目ハ十一をかけるへし

今米あり三年乃間元利合して百三十七石二斗八舛し初年ハ三割二年目ハ二割三年目ハ一割にして元米何程と問

答曰　元米八十石

術に曰百三十七石二斗八舛を實に置三年目の一割に十を加へ十一にて實の米高を割バ百廿四石八斗となる此米高を二年の二割に十をくはへ十二にて割ハ百〇四石となる又是を初年の三割に十を加へ十三にて割へし

銀四十三匁に付一ヶ月八分六厘づゝの利足にて二百十五匁の利銀一年分を問

答曰　五十一匁五分

術に曰二百十五匁を實に置八分六厘をかけて一八四九となる是に一年の月數十二をかくれば二二一八八となる是を實にし四十三匁にて割へし

銀五メ目借用し一ヶ月に一メ目宛なし崩にして五ヶ月乃利銀何程と問
但し一メ目につき一ヶ月の利足十二匁づゝなり

答曰　五ヶ月の利銀百八十目

初月	六十目
二月	四十八匁
三月	三十六匁
四月	二十四匁
五月	十二匁

術に曰實に五ヶ月を置是ハ初月一ヶ月を加へて六ヶ月となる是を二にわりて三ヶ月とし是に五メ目をかけて十五メ目と成是に十二匁をかけるへし

小判百両二人に貸付るに一人ハ一両につき一ヶ月の利足銀一匁一分また一人ハ一匁二分へ双方合して五ヶ月の利銀六百二十三匁へ双方の金數何ほど問

答曰

一匁三分の方	七十三両
一匁一分の方	二十七両

術に曰利六百二十三匁を五に割百二十四匁六分と成擬百両に一匁一分

の利ことごとく百十文を足して百の百十四文を分に除じて分百四
文六分六厘を求む文分の内文分の利の遠銀の分の利を求むるに
十四文六分六厘に十二を乗じ
銀百目をもって代官所に入べし利子十四文六分の利の代官
から一年の利足を算合用の為に遠銀を差引る者代官所高百両
答曰 二割の方応銀
銀百目 利子六分銀 利子銀十文六分六厘
利銀十文六分六厘 遠銀百目
遠銀十文六分六厘 二十五文を足す
遠銀百十文六分六厘 百目の割の利子
遠銀百十文六分六厘 利子六分六厘の遠銀
遠銀百十文六分六厘 利子六分六厘の遠銀の利子
答五石を正月に借て十二月に応利分米七石を返す年利何程か
問 答曰 米二斗 利米 一石
銀百目を利子を求る為に利子六分を除て遠銀百十文六分六厘
米五石を二年借元利ともに五石一年に七石を返す年利何程か問
答曰 米二斗 利米 一石一斗
銀百目元利ともに百十文遠銀百十文を除て利子銀何程か問
答

元四 紬布売買之部

木綿 反長 天代 代銀 五匁 金内九分 手賃 壱代銀問

答曰 内八分 手賃 代銀五匁

紬仕立問 代五匁 手賃 代銀何程

答曰 一反代 十二匁

紬仕立問 紬三尋 六反賃 代銀 壱匁 五分 問へ

代銀 何程

答曰 内九分 五匁 手賃 壱代銀 問

紬 反長 三丈 代銀 壱匁 五分 問へ

代銀 何程

答曰 内九分 五匁 手賃 壱代銀 問

紬 反長 三丈 代銀 壱匁 五分 問へ

代銀 何程

答曰 内九分 五匁 手賃 壱代銀 問

羅紗長六尺五寸幅五尺二寸あり一尺四方につき代銀四匁三分五厘づゝにして惣代銀何程と問

答曰　百四十七匁〇三厘

術に曰六尺五寸に五尺二寸を懸合し三三八となる是に一尺四方の代四匁三分五厘をかける之

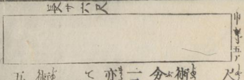
金襴の長一尺幅一尺九寸の切代銀四匁七分五厘之内にて八寸巾四寸と買ときは代銀を問

答曰　代八分（八寸に四寸　坪数卅二坪）

術に曰長一尺に幅一尺九寸を懸合し寸歩百九十歩となる是にて四匁七分五厘を割ば寸分一坪の代二厘五毛となる扨八寸に四寸をかけ合し寸歩三十二坪となる是に二厘五毛をかける之○又術に曰八寸に四寸をかけ合し是に四匁七分五厘をかけ惣歩百九十坪にて割も同し類之

九廿

織物類尺割之部



今圖乃如き織物あり一尺五寸巾にしては尺數を問

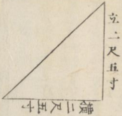
答曰　三尺

術に曰長六尺に巾七寸五分をかけ合し四五と成是を一尺五寸にて割之

亦問一尺八寸巾に引直しては尺數如何

答曰　二尺五寸

術に曰立横をかけ合せ四五を一尺八寸にて割之

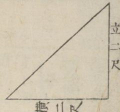


圖乃如き織物の端切あり二尺五寸巾に引なをしては尺數如何

答曰　一尺二寸五分

術に曰先横巾二尺五寸を二に割一二五となる是に立巾二尺五寸をかくれば三一二五となる

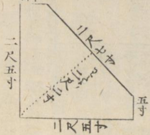
右を定巾二尺五寸にて割ば尺數を知るなり



今圖乃如き織物の端切あり二尺五寸巾に引直して尺數を問

答曰　巾二尺五寸　長サ八寸

術に曰横二尺を二に割一とある是に立二尺之かくれバ二とある是を二尺五寸にて割なり



今圖乃如き織物乃端切あり二尺五寸巾に引直して尺數を問

答曰　巾二尺五寸　長サ一尺六寸八分

術に曰二尺七寸（五寸五寸）を合して三尺七寸之是に二尺五寸をかくれバ九二五とある是をとうりの二尺二寸にて割四二とあるを定巾二尺五寸にて割なり

（九六）着類入尺早積之部

九寸幅乃絹にて着尺長サ三尺五寸袖一尺五寸にある入尺を問

答曰　二丈六尺

術に曰三尺五寸に一尺五寸を加ゆれバ五尺とある是に着尺乃定法五二をかくれバ入尺を得る之○九寸巾着尺の定法五二なり

九寸幅の木綿にて長サ二尺八寸袖一尺三寸乃着尺の入尺を問

答曰　二丈一尺三寸

術に曰二尺八寸に一尺三寸を加へ四尺一寸之是に定法五二をかくるへ

九寸幅乃晒布にて長サ三尺九寸袖一尺五寸五アの着尺の入尺を問

答曰　二丈八尺三寸

術に曰三尺九寸に一尺五寸五アを加へ五尺四寸五ア之是に定法五二を懸之

九引悔の価を長さ尺寸相加へ足すべき価幾の長さ尺寸問

答曰長一尺四寸

術曰長尺寸を価に乗じ価に足す価幾の長さ尺寸

答曰一尺二寸八

術曰長尺寸を価に乗じ価に足す価幾の長さ尺寸問

答曰一尺二寸八

問有甲者買鹿之価

五七七七

五七七七

五七七七

術に曰一匁五分と三百目に割綿百目の代銀五匁となる是に二百廿
目と懸平野目一斤の代銀一匁一分之是に廿六斤を懸る之

平野目（二百廿目）一斤代銀一匁一分にして銀百六十五匁の綿分銅目（三百目）に
引直して斤數を問

答曰　百十斤

術に曰百六十五匁を一匁一分にて割平野目百五十斤となる是に二
百廿目をかけて三十三メ目となる是を三百目にて割なり

銀百目に平野目（二百廿目）百二十五斤之分銅目（三百目）千五百斤の代
銀を問

答曰　一メ六百廿六匁三分六厘余

術に曰百廿五斤に二百二十目を懸廿七メ五百目となる是を法
置千五百斤に三百目を懸四百五十メ目之是を右の法にて割之

平野目五十六斤の綿代銀六十一匁六分之分銅目廿六斤の代銀を問

答曰　五十四匁

術に曰六十一匁六分と五十六斤にて割一斤代銀一匁一分之是を
二百廿目にて割ば綿百目の代銀五分之是に三百目をかけ分銅
一斤代銀一匁五分となる是に廿六斤をかける之

茶一斤に付（二百五十目成）代銀三匁二分之銀十六匁八分に何斤と問

答曰　五斤二分半（二分半乃目方ハ六十二匁五分なり）

術に曰十六匁八分を三匁二分にて割之但し二分半の目方を知ハ
一斤の目方二百五十目を二分半割りにかけろ之

茶三メ目代金一歩之（金相場六十目）一斤の代銀を問

答曰　一匁二分五厘　（二百五十目斤）

術に曰三メ目を二百五十目にて割十二斤之是にて十五匁を割之

茶十二メ目あり是を舛にて斗れバ一石八斗あり一斤にハ何舛有と問

荅曰　一斤分三升七合五夕

術に曰十二メ目を斤の目方二百五十目にて割バ四十八斤〻是を法にして一石八斗を割〻

薪九千二百七十束あり銀一匁に付卅六束ずゝにして惣銀高を問

荅曰　二百五十七匁五分

術に曰九千二百七十束を卅六束にて割なり

金相場六十目乃時一両に付薪百六十五束〻九十九束の代金を問

荅曰　金二歩と銀六匁

術に曰九十九束を百六十五束にて割バ金の歩通六十と成この内を二歩の定法五十と引バ残十と成是に金相場の六十目を懸る〻

薪を贖

銀借り九十三文月から銀延べて一ヶ年借りて銀高いくら問

答　一ヶ月　四ヶ月九文

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

答　三ヶ月　三ヶ月

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

答　一ヶ月　四ヶ月九文

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

沈香十文から買ひ延べて代銀四ヶ月から一ヶ年借りて代銀いくら問

答　一ヶ月　四ヶ月九文

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

答　三ヶ月　三ヶ月

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

術曰　借り代銀四ヶ月から一ヶ年を一文目にて割る

今京大坂堺の商人銀百六十〆目出し合唐物を買に京の人ハ銀六十四〆八百目出し大坂の人ハ銀四十二〆九百目出し堺の人ハ銀五十二〆三百目を出し四種の唐物を買その品々ハ

人参	二百五十斤	沈香	七十斤
糸	八千四百斤	巻物	二百八十本

右四品の代銀百六十〆目之各銀高に應し割符何程つゝと問

答曰　左の通

京の商人　銀六十四〆八百目分

人参	百一斤十両
糸	三千四百二斤
巻物	百十三本二丈五尺二寸
沈香	二十八斤十四両

大坂の商人　銀四十二〆九百目分

人参	六十七斤一両一匁
糸	二千二百五十二斤四十目
巻物	七十五本二丈八寸五分
沈香	十八斤十二両

堺の商人　銀五十二〆三百目分

人参	八十一斤十一両三匁
糸	二千七百四十五斤百廿目
巻物	九十一本九尺九寸五分
沈香	二十二斤十四両一匁

右三人への割符術のつなり

術に曰先人参二百五十斤を置京の六十四〆八百目をかけて一六二とあるこれを惣銀高百六十〆目にて割ハ百一斤二五と成此二五に一斤の定法十六をかけて四十目となる是を一両の定法四にて割ハ十両と知る又沈香七十斤に六十四〆八百目をかけ四五三六となる是を惣銀高百六十〆目にて割ハ二十八斤三五と成此三五に定法十六をかけ五十六匁となる四に割て十四両なり又糸八千四百斤に六十四〆八百目をかけ五四四三二となる是を百六十〆目に割三千四百二斤之又巻物二百八十本に六十四〆八百目をかけ一八一四となる是を百六十〆目にて割ハ百十三本四となる此四を一本の丈三丈八尺とり

け一丈五尺五寸となる残る一人の割符も同術なり

絹一疋の目方二百十六匁七分七厘あり糸目百目に付銀卅八匁七分五厘の廻しにして一疋の代銀を問

答曰　一疋代　八十四匁

術に曰二百十六匁七分七厘に卅八匁七分五厘をかくるなり

絹一疋目方二百十六匁七分二厘あり銀十匁に付糸目廿五匁八分の廻しのとき糸目百目に付何程の廻しに當るを問

答曰　糸目百目　銀卅八匁七分五厘余

術に曰糸目百目を二十五匁八分にて割なり

絹一疋目方二百十六匁七分二厘あり銀十匁に糸目二十五匁八分の廻しにして一疋の代銀を問

答曰　一疋代　八十四匁

術に曰二百十六匁七分二厘を糸目二十五匁八分にて割なり

八十八　諸定法

圓法　二二五

圓法　七九

圓廻法　三一六

玉法　五一

匡法　六二

圓形並法　十二

錐法　五二

錐法　三

三角法　四三三同中鈎八六六

三角整法　一五一九六

是ハ四方の一方の寸に此法をかけ三角方の寸を知る又三角一方の寸を此方にて割バ

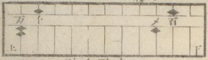
八十九　乘歸定位

銀一メ五百目を二万五千人に割付る一人分を問

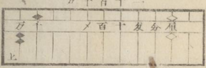
答曰　一人分　六厘

〇　術　△

一の圖



二の圖



一厘　一分　一匁　十匁　百目　〈一メ目

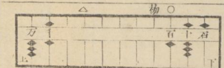
一の圖の如く一メ五百目とおき二万五千く割二の圖の如く六となる此六を六分とする六厘を知ることハまづ〇印の次桁といふ字のけより下十百千万とぞへ上り数へ印の所が万に當る二万五千人ハ万の桁ゆへ△のけより銀高一メ目と目百目十匁一匁一分一厘と次第にかぞへ下れバ厘のけに六ある〈六厘となるなり

四方一方の寸を知る定法あり

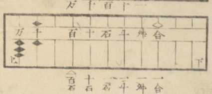
鱗形法	二五
五角法	一七三
六角法	二五九八
七角法	三六四
八角法	四八二八
九角法	六令九二
十角法	七七三
蕎麦殻法	二七八三
切篭法	二三五七
九切篭法	九九四四
四面六角切篭法	二七一令五
田乃法	三

米百八十五石を三万六千人に割分る時一人分を問

答曰　一人分　五合づゝ



一の圖



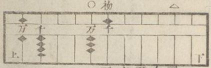
二の圖

百八十五石をせき三万六千人に割ハ二の圖の如く五とおる扱一の圖の百のけくこの次より上へ下百千万とかぞへ上るに△印のけくガに當る三ハ万ハ万の位ゆへ△のけくより下へ百石十石一石一斗一舛一合とかぞへ下るに合のけくに五あるゆへ一人分五合づゝと知るべし

平歩法	四二三五	（六尺平寸 四方之）
同	三九六九	（六尺三寸 四方之）
同	三六	（六尺 四方之）
壹間法	六五〇三六〇六	
落法	一六	四寸落あり
同	二五	五寸落あり
同	九	三寸落あり
同	四	二寸落あり
古桝法	六二五	（或ハ十六四法之）
今桝法	六四八二七	
飯攪法	五九	
濟統法	三	
裏曲尺法	一四一四二	

金相場六十四匁の時三万五千両の代銀を問

答曰　二千二百四十メ目



一の圖

二の圖

前の如く割る時の位八十百とかぞへ上りて又一メ目百目十匁とかぞへ下れども此圖の如くなれば時の位ハ頭のけたへ○物印のけたより十百千万とかぞへ下りて位へ△印のけたに當る六十四匁をの位ゆへ二の圖の如く△印のけたより十メ目百目一メ目十メ目百メ目一メ目とかぞへ下るに扱十メ目に當るけたに二あるゆへ銀高二千二百四十メ目ありと知るべし

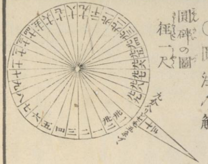
一 立法 二七四六二五（六尺五寸四方 法ケも開術）

一 方臺法 六二（二法とも帰法之）

㊀ 諸法起源

○圓法乃解

圓碎の圖 径一尺

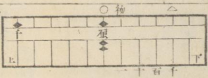


圓法七七九とある起りハ右圓碎の圖乃如く指わたし一尺の圓圻を周卅二に切放して見れバ一ツに付て長さ五寸ずゝ巾九分八厘七毛五糸あり又卅二と二ツにて〆十六つとなる上下の圖乃如く組合し見れバ長さ一尺五寸八分となるこれに五寸をかくれバ寸歩七十九となるなりゆへに圓法を七九と定めるへし又さしわたし一尺の圓ハ周三尺一寸六分あるゆへ故に圓廻の定法を三一六とするへし

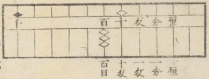
一本に付銀七厘替の筆五千本乃代銀を問

答曰 三百五十目

一の圖



二の圖



一の圖乃如く七厘と置五千本をかくれバ二の圖乃如く三五となる一乃七厘の下初印のけたより一十百千とかぞへ下り千の位△印のけたに當る△乃けたを七厘乃位とし二乃圖の如く一厘一分一匁十匁百目とかぞへ上り百目乃けたに三あるゆへに三百五十目と知るなり

右圖乃如く帰し時の位ハ○印の頭けたの次より上へ一十百千とかぞへ上り扨銀高の頭一〆目なれバ〆目百目十匁一匁と次第にかぞへ下り割る商の位を知るへし亦乗る時ハ○頭乃桁の次より下へ一十百千万十万とかぞへ下り法カあらバ万千あらバ十と立りとし扨初め置る高一匁の位なれバ一匁十匁百目一〆目と次第にかぞへ上りかけるる商の位を知るなり

割懸とも○頭より三桁目が十四桁目が百五桁目が千六桁目が万以上是に准して考るべし

○乗帰乃位を知る歌

われバ上りかくれバ下へかぞふれバ
十三百四千五万六

筭術に上達するとも位を見る事を知ざれバ其詮なし右乃歌にてよくよく心得べし

○玉法乃解

一寸四方六面の積三十五万九千四百九五歩四分三厘一毛とした時玉の径何尺と問

答曰　径九尺

術に曰積數を立法に開き後四

卄一　寄筭早括秘傳

此法ハ商家大重寳の奇術にして譬ハ口數多き寄筭とする時五七人も掛筭する尤悉く少くの差ありて何もの高ゟ合し共知れかくて今一應置直さんにも口數多くて難渋なる時此法を以て正せバ五七人の内誰こそ誠のメ高に合りといふ事明らかに知る奇法之然るに適此法を知る人も心に惜みて人に傳へず世の筭学者も秘して書に記さゞるゆへ知る人稀之然とも人命に限あり法ハ万世の宝之是を己のミ知て人につたへずと後に命と共に消滅させて何の益かあらん依て今その術を茲にあらはすものなり

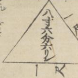
法を以て割バ玉の径知るなり

曰此積ハ廻りを四に割左右にわき自乗し又一度かけて四方六面の積何程と知るべく又径を両方に置かけ合して又一度かけ其後四九三〇三九をかけるも同じ理なり

○三角定法解

三角の法四三三〇九

解ハ一尺三方の寸坪四十三坪三分あるゆへなり三角の面一尺有ときハ角より平八寸六分六厘あり



是に面の百八を二に割五寸をかくれバ四十三坪三分となるなりゆへに四三三を定法とするなり　角平

又問三角の面一尺なる時角より下

今両人の者寄筭とする処其銀目ハ

㊀一メ二百十匁㊁九百九十目㊂一メ八十目
㊃百三十四匁㊄十一メ三百目㊅九百四十五匁
㊆六十二匁五分㊇二メ七百目㊈六百三十二匁

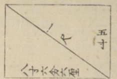
右メ高一人ハ二十一メ(令)(令)五十四匁五分へと云ひ又一人ハ二十メ(令)(令)五十三匁五分へと云りいづれか合しやと問

答曰　二十メ(令)(令)五十三匁五分の方合之

術に曰上の圖の如く筭盤三桁ありて何百メ目の銀高又ハ錢高ある高にても置ること先(人)の桁へメ目を置其上へ二百を加へ三となる其上へ十匁を加へて四となる桁(人)の桁へ九百目を加へん

へ八寸六分六厘ハ何を以て知ると問

答曰一尺を左右に置て乗合せ一尺坪



百歩あり又一尺を二ツ割五寸を左右に置かけ合せハ廿五歩となる是を右百坪の内にて引ハ残七十五坪あり是を平法に開けハ八寸六分六厘〇二糸となる下の二糸を捨て八寸六分六厘とす依て中鈎の定法を八六六とせり是に依て四三三乃法にとかこり有本積八四三三〇一なり亦三角乃角より平への長サ其八寸ニ自乗し一七三二を以て割ても坪数知るて六面一尺乃角より平へ乃八寸六分六厘を左右にかけ合一七四九九五六となる是を本坪四三三を以て割ハ一七三二

ところに四あれバ加へがたし此時九に一ならその十と（人）の一を取て（地）へ一を置直に此一を取て（人）へ一を加へるやなり四と成次に九十目を加へるも同断にて（人）乃一を取て（地）へ一を置直に除ひて（人）へ一を加へやなり四となる次に（人）へ二メ目を加へ六となる扨八十目ハ八ホ二てその十と（人）乃六乃内二を取（地）へ一を加へ直に其一を除ひて（人）へ一を加へ五と成斯乃如くメ目も百目も十匁も一匁も一分も一厘も皆（人）乃桁へ重ねくて加へ十に満れバ除ひて（地）へ一を加へ直に夫を除ひて（人）へ一を加へ前乃いなの銀目揃上て圖乃如く（人）乃桁六と成扨此内にて右両人乃メ高を引法ハ先六の内九メ目引て四残る此四乃内にて五十目引にハ五引て五残ると（人）の四乃内一を取く（天）乃桁へ五を加へる（人）（天）乃二桁にて三五と成是を卅五匁

となるゆへ是より出る法なり

六角定法解

一寸四方の積六千四百九十五坪を以て六角に鑑るときハ一方の寸何程と問

答曰　五尺づゝ

術に曰右乃坪数を六角の法二五九八を以て割ハ二千五百坪となる是を平法に開けハ六角の一方の尺を知るへ〇本六角の積を知る術ハ五尺を左右に自乗し定法二五九八をかくれバ六千四百九十五坪となるへし

積上圖

を見て二桁の三五を除へバ一顆も残らず是後の方の〆高が合しなり右引残り三五にて八四十五匁ハ引きざれバ先の方の〆高ハ違ふと知るへし此法ハ万も千も百も十も一も差別なく（人）乃桁・桁へおく法なり是をよく會得すべし〇さて八百七十九メ六百五十三文と置なれバ（人）乃桁へ百と置その上へ七を加へ（八となる）その上へ九を加へる八八の内乃一をとえよひ（地）へ一を加へ直にその一をとえよひ（人）へ一を加へる（八となる）扨六を加へるにハ八の内四を除ひて（地）へ一を加へ直に此一を除ひ（人）へ一を加へる（五となる）扨五十を加へるハ（人）乃五を除ひ（地）へ一を加へ直にその一を除ひて（人）へ一を加へる（[illegible]となる）扨其上へ三文を加へて四となる是

置上乃数ハ此内にて右銭高を引ふ

六角法二五九八之圖

六角の法二五九八の起りハ面一尺の六角に寸四方の坪数二百五十九坪八分あるゆへなり

法を求むる術六角の面一尺ある時ハ平のさしわたし一尺七寸三分三厘あり是を六に割バ八寸六分六厘あり是に面一尺を二ツに割て五寸とかくれバ四三三となる是に六をかくれバ二五九八となる是ゆへ六角の法ハ二五九八となるへ

全圖左の如し

此如く切放坪数を積るへ

ハ先四の内百を引残り三となる此内七十〆引て三残ると三の内の一を除ひ㊝の桁へ三を加へる㊇㊝二三となる扨九〆引て一残ると㊇の二の内一を除ひて㊝へ一加へる㊇㊝一四となる扨六百引て四残ると㊇の一を払ひ㊝へ四を加へる㊝八となる扨五十文引て此八の内の五を除ひ㊝に三残る是を三文引とれハぬへ右の加減の理をよく覚ゆる時ハ何十〆目の寄算も一厘一毛も違ふ事なく傍に合算する者の〆高の合と合ざるを正す事掌を指が如し僅に三桁にて事済バ會得せし上にてハ十露盤とくずとも胸の内にても数十〆目の〆高を積る事太安し世に懐もして寄算を聞て居〆高の合と合ぬを知る人あらバ如何なる算術の達人にや驚け

此切寸坪四十三坪三分之

是に依て四三三となりる之

右の三角を六ツ合せれば此の如く六角となる坪が合して二百五十九坪八分へ

六角の面一尺有ときハ平より平へさしわたし一尺七寸三分三厘有と知る事次に圖あり元六角の面二尺の三角ハ面一尺の六角を出せしもの也故に六角の三角に入一尺づつの三角三ツ残る次の圖を見て知るべし

ども皆此法を會得せしの外に寄算の術にハあらず誠に商家ならバ覚へざれバ叶ざる奇法なり励むべし学ぶべし

㊷ 盗くし算の法

圖のごとく四方にならべて一方に八ツづゝ有ときハ一方の八ツをバ其從者三方をくづし又八ツづゝならべる見ればぬしたる四ツありこのぬしたる割りを聞て惣つゞを問

答曰　惣つゞ二十八

術に曰ぬしたる四ツと四ツづゝ算用ふして四ツなれハ十六とわき是に十二を加へて二十八と知るなり

ぬしたる[illegible]なり

㊸ 百五減之法

此圖の如く三角の三方一尺づゝ切落せバ一尺面の六角と成る又三角の面三尺に中鈎の法八六六をかくれバ

大の角より平へのさしわたし二尺五寸九分八厘あり此内角一ッ分の立り八寸六分六リンをひけバ一尺の面六角の平より平へのさしわたし一尺七寸三分二リと成なり

◯八角定法の解

一尺四方の坪三百九十一坪一方〇〇〇四七

是ハ七五三と書て惣数を知る術なりたとへバ人懐中に銭を隠し是を七文づゝ引ときハ二文のこる又五文づゝ引ときハ一文のこる又三文づゝ引ときハ二文のこる惣ハ何ほどと問

答曰　八十六文

術に曰先七文づゝ引しときの端銭を一ッと十五を立て二文なれバ卅文とかき又五文づゝ引ときの端銭一ッを廿一と立一文あれバ卅文の上へ廿一文を加へ又三文づゝ引ときの端銭一ッを七十と立二文残るゆへ右五十一文の上へ百四十と加へ三口合して百九十一文是を百五文をひけバ残八十六文と知るべしもし百より内の合ハ引に及バず三口合したるまゝが惣高なりと知るべし

浪速書房
心斎橋通塩町筋西北角
綿屋喜兵衛版